

資料30 教育の三方針

コミュニティデザイン学科

教育の三方針

修了認定の基準 (ディプロマポリシー)

- ・ 地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける
- ・ 地域社会の課題を発見するとともに、分析することができる能力を身に付ける
- ・ 地域の資源を新たまちづくりに活用することができる能力を身に付ける
- ・ 新たまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力を身に付ける
- ・ 地域で主体的・協働的に行動し、活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力を身に付ける

履修条件 (アドミッションポリシー)

- ・ 地域や社会との関わりの中で学び、課題解決に当たる意欲のある人材
- ・ 地域の成り立ちを理解し、より良いコミュニティの創成を追究する責任感のある人材
- ・ 地域の資源・社会システムの視点から、総合的・実践的にまちづくりを学ぶ熱意のある人材

学修・教育目標を達成するためカリキュラム方針 (カリキュラムポリシー)

- ・ コミュニティデザイン学科では、地域社会を構成する社会集団や制度等をデザインする人材を育成するため、以下のようなカリキュラムポリシーを定めています。特に、学習効果を高めるために、地域との関わりの中で学ぶ機会を創出している他、アクティブ・ラーニングの手法を導入し、教員や学生同士の双方向型授業を実施します。
- ・ 1～2年次において、人文・社会・自然基礎科目や、コミュニティデザインに欠かせないコミュニケーション能力などソーシャルスキルや、社会調査データの解析方法を学修する。さらに、地域資源、高齢社会、社会福祉、行政、政治、経済、生涯学習など、地域の課題や主題について幅広い視点から理解できるように、教員や行政担当者などによる授業を行うとともに、現場を訪問します。

資料31 カリキュラムツリー
コミュニティデザイン学科

資料32 学修・教育の達成目標確認マトリックス
コミュニティデザイン学科

学修・教育の達成目標確認マトリックス

科目名	単位	学年 学期	ディプロマポリシー又は養成する能力				地域で主体的・協働的に行動し、活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力
			地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力	地域社会の問題を発見するとともに、分析することができる能力	地域の資源を新たなまちづくりを活用することができる能力	新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力	
地域社会総論	2	1前	◎	○			
まちづくり論	2	1後	◎	○	○	○	
行政学	2	2前	◎			○	
経済学概論	2	1後	◎			○	
政治学概論	2	1後	◎			○	
社会調査と地域	2	2前	○	◎	○	○	
統計学基礎	2	2後	○	◎		○	
社会調査法	2	2後	○	◎		○	
社会統計学	2	3前	○	◎		○	
社会調査実習Ⅰ	1	3前	○	◎		○	○
プロジェクト評価論	2	3後	○	◎	○		
高齢社会学	2	1後	○	◎	○	○	
地域資源論	2	1後	○	◎	○	○	
観光概論	2	2後	○	◎		○	
農村起業論	2	2後			◎	○	○
地域食育論	2	2前			◎	○	
公共政策入門	2	1前	○			◎	
NPO論	2	3前			○	◎	○
公共経済学	2	2前	○			◎	
地方自治論	2	3前	○		○	◎	○
福祉社会学	2	3後		○		◎	
多文化理解論	2	3前		○		◎	
文化マネジメント	2	2後			○	◎	○
ソーシャリスキル演習	2	2前			○	◎	◎
まちづくり特講	2	2後			○	◎	◎
地域実践心理学	2	2後				◎	◎

資料33 宇都宮大学シラバス掲載例

コミュニティデザイン学科

宇都宮大学シラバス掲載例（コミュニティデザイン学科）



授業科目名	経済学概論 Principles of Political Economy				
開講時期	後期	曜日・時限	木:3-4	時間割コード	未定
開講学部等	地域デザイン科学部	科目等履修生の受入	未定		
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	講義
担当教員名	塚本 純				
電話番号	028-649-5286	電子メール	tukamoto@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	金13:30-14:30:あるいはe-mailによりアポイントメントを取った時間				
特記事項	<p>【授業の内容】 現実の経済問題にも触れながら、ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩的な経済分析の手法を提示しながら、経済学の視座と経済学的分析について力解説する。</p> <p>【授業の到達目標】 経済学の視座と経済学的分析力を獲得することにより、多面的な社会認識の能力を身につける。</p> <p>【学習・教育目標との関連】 学科専門科目社会システム科目群の科目として、主に地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身につける。</p> <p>【前提とする知識、関連する科目等】 経済学の予備的知識がないことを前提に講義する。高校卒業程度の学力があれば十分である。 関連科目: 公共経済学、経済政策論、</p> <p>【授業の具体的な進め方】 授業形態は、テキストを用いレジュメにより授業の展開を提示した講義を基本とする。必要に応じて資料等を配布して、実社会との関連について討論を行う。第1部(2~5回)がミクロ経済理論の初歩的解説である。概念の説明と図解を中心とした演習問題を行う。第2部(6から9回)はマクロの統計を解説する。その部分では、現実の資料を配付する。第3部(11~15回)はマクロ経済理論の解説となる。また、いくとおりかの計算がでてくるので必要に応じて、演習をおこなう。AL20: 提出レポートに対する添削、授業時間内外での演習など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。</p> <p>【授業計画】 1. ガイダンス(経済学の対象と方法) 2. 需要、供給、市場均衡 <参考書ミクロ経済学第2章1・3節> 3. 比較静学 <ミクロ第2章2節> 4. 需要曲線と供給曲線の傾き(価格弾力性) <ミクロ第2章4節> 5. 政府の介入と市場均衡 6. GDPの定義について <第1章p. 1-8> 7. GDPに関連する諸概念 <第1章p. 8-26> 8. 他の経済統計(資産、国際貿易など) <第1章p. 8-26> 9. オープンエコノミー(国際収支、為替制度など) <第7章p. 125-133> 10. 中間まとめ(小テストと振り返り:内容の整理) 11. 景気の変動(直感的理解)、有効需要の原理 <第2章p. 33-40> 12. 消費関数とGDPの決定(均衡) <第2章p. 41-48> 13. 均衡GDP(安定性とISバランス) <第2章p. 48-52> 14. 乗数理論(需要の変化) <第2章p. 52-55> 15. 政府・外国貿易を含んだモデル <第2章p. 55-62></p> <p>【教科書・参考書・教材等】 教科書: 『マクロ経済学』第3版、吉川洋著(岩波書店、2009年) プリント: 講義の進捗のガイドとなるプリントを配布する 参考文献: ミクロ経済学に関して、『ミクロ経済学』第3版、西村和男(岩波書店、2011年)</p> <p>【成績評価】 2/3以上の出席で評価対象とし、課題レポート(20%)、授業中の活動(10%)、中間まとめ(30%)、期末テスト(40%)の総合点を判断基準にして、成績を評価する。総合点が60点以上の場合「可」(合格)、70点以上の場合「良」、80点以上の場合「優」、90点以上の場合を「秀」とする</p> <p>【学習上の助言】 どのような学生でも履修できる授業です。経済学は、高校までで本格的に取り上げられない科目です。これまで何を学んだかということよりも、新たなことに取り組む姿勢が大切になります。ただし、経済学の学習は積み重ねが大事です。仕方なく欠席する場合は、友人のノートを見せてもらったりテキストを読むなりして、次回の講義までに自分で補っておくことが、講義を理解するためには必要です。</p>				

資料34 教育の三方針

建築都市デザイン学科

修了認定の基準 (ディプロマポリシー)

- ・ 自然現象のメカニズムを理解し，建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける
- ・ 人間及び社会の要求・条件を理解し，建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける
- ・ 資源活用と建設プロセスを構想し，建築・まちづくりとして実現する能力を身に付ける
- ・ 歴史文化を尊重し，目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける
- ・ 工学・地域デザイン学と芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く

履修条件 (アドミッションポリシー)

- ・ 建築と地域デザインの専門技術を学ぶために必要な幅広い基礎学力を有する人材
- ・ 人間生活・社会・自然を含む地球環境と建築・地域デザインとの関わり学が熱意のある人材
- ・ 歴史・文化・芸術を活かした建築・地域空間創造を追究する意欲のある人材

学修・教育目標を達成するためカリキュラム方針 (カリキュラムポリシー)

- ・ 建築都市デザイン学科では，数学，物理学などの理数系基礎科目，英語や情報処理基礎，そして人文科学系，社会科学系，社会科学系および健康科学系の科目などを履修することで，社会人・技術者としての幅広い教養とリテラシーを身につけ，また，地域と係わるアクティブ・ラーニングの性格をもつ講義・演習により主体的な学びの姿勢を身につけて，専門科目履修のための基礎を形成します。これは主に1～2年次に履修します。
- ・ 建築都市デザイン学科の専門科目は主に2年次以降であり，必修科目と選択科目にて構成されます。必修科目は，建築学全般について基本的事項を学修するためのものであり，幅広く定められた全ての分野の科目を履修するように学問上の体系と学修の順序が考慮されています。実験，実技，インターンシップなど実践的な内容を含みます。選択科目は，やや専門化した分野について学修するためのもので，上記のような各専門技術者向きの内容の選択を可能にし，各自の将来の進路に適した知見が修得できるように構成されています。卒業設計と卒業論文の両方が必修科目であることが特徴であり，修得した幅広い建築に関する知識の集大成として卒業設計を行い，各自でテーマを定めて修得した高度な専門技術を発展させて卒業論文をまとめます。

資料35 カリキュラムツリー
建築都市デザイン学科

地域デザイン科学部建築都市デザイン学科

宇都宮大学地域デザイン学部建築都市デザイン学科 カリキュラムシソー

必修 選択必修 選択	1年次		2年次		3年次		4年次		学修・教育目標
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
現代社会で活躍する人のリテラシーを培う	Integrated English I A Integrated English I B	Integrated English II A Integrated English II B	Advanced English I	Advanced English I					デザイン科学とデザイン科学に対する共通のリテラシーを身につける
	スポーツと健康情報処理基礎	とちぎ卒業学総論							地域における多様な主体との間で意思疎通を図れるコミュニケーション能力を身に付ける
幅広い教養と豊かな人間性を養う		とちぎ卒業学特講							
	人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目、初習外国語系科目、総合系科目、基礎キャリア教育科目								人間と社会・文化・地域に関する教養を身に付ける
地域デザイン学のあり方と専門の基礎を学ぶ	新入生セミナー 地域デザイン学序論A	地域デザイン学序論B 地域デザイン学序論C							
	地域デザイン学のあり方と専門の基礎を学ぶ								建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う
地域デザイン学の関連分野を学ぶ	微積分学及演習	地域デザイン訪問							
									自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける
建築学と地域デザイン科学の基礎と応用を学ぶ	高輪社会学 まちづくり論		線形代数学及演習	社会調査法	工業日本語基礎 I	工業日本語基礎 II	工業応用		人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける
設計実習	建築社会学 建築設計基礎				社会統計学	生物多様性論	国土計画		資源活用と建替プロセスを構想し、建築・まちづくりの実現する能力を身に付ける
									歴史文化を尊厳し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける
建築計画			建築設計製図 I	建築設計製図 II	建築設計製図 III	建築設計製図 IV	建築設計製図 V		
建築意匠			建築計画学 I	建築計画学 II	建築計画学 III	建築計画学 IV	建築計画学 V		
建築史			建築コンパレーション論	建築史 I	建築史 II	建築史 III	建築史 IV		
建築再生									
建築安全									
建築構造			建築構造力学 I	建築構造力学 II	建築構造力学 III	建築構造力学 IV	建築構造力学 V		
建築環境									
建築設備			環境工学 I	環境工学 II	設備工学 I	設備工学 II	設備工学 III		
建築材料									
建築構法			建築構法	建築構法 I	建築構法 II	建築構法 III	建築構法 IV		

カリキュラムシソー

資料36 学修・教育の達成目標確認マトリックス
建築都市デザイン学科

学修・教育の達成目標確認マトリックス

科目名	単位	学年 学期	ディプロマポリシーは達成する能力			
			自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力	人間及び社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力	資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力	歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力
建築構造力学Ⅱ	2	1後	◎			工学・地域デザイン学と芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く能力
鉄骨構造	2	3前	◎			
地域環境エネルギー計画	2	3後	◎		◎	
建築材料実験	1	3前	◎			
建築計画学Ⅰ	2	2前		◎		
都市計画	2	3前		◎		◎
設備工学Ⅰ	2	2後		◎		
バリアフリー建築論	2	2後		◎		◎
建築材料Ⅰ	2	2後			◎	
建築生産	2	3後			◎	
建築リサイクル学	2	3前			◎	
建築デザイン	2	3後		◎		◎
建築史Ⅰ	2	2後				◎
建築地域設計概論	2	3後		◎		◎
卒業設計	4	4通			◎	◎
卒業研究	4	4通			◎	◎

資料37 宇都宮大学シラバス掲載例

建築都市デザイン学科

宇都宮大学シラバス掲載例（建築都市デザイン学科）



授業科目名	設備工学 I Building Service Engineering I				
開講時期	後期	曜日・時限	水:5-6	時間割コード	未定
開講学部等	地域デザイン科学部	科目等履修生の受入	受入可		
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	講義
担当教員名	郡 公子				
電話番号	028-689-6189	電子メール	kohri@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	水曜12:30～13:30				
特記事項					
<p>【授業の内容】 建築設備は、建築室内環境を良好にし、人の活動を支援するためである。ただし、室内環境を良好にするには、建築設備以前に建築自体の性能をも高くする必要がある。設備工学 I では、建築と設備の環境調整性能について、電気設備・給排水設備・空調設備の使命、仕組み、主要な機器構成など設備全般の概要について講義する。</p> <p>【授業の到達目標】 建築設備全般に関する基本知識を修得する。具体的な目標は以下である。 ・自然、周囲環境との調和、建築と建築設備の協調が重要であることを理解する。 ・建築設備に関連する人の生理・健康性・快適性及び環境の基本を理解する。 ・建築設備システムを構成する主要な機器の役割と機器同士のつながりを理解する。 ・身近にある建築設備とその機能に関心をもつ。</p> <p>【学習・教育目標との関連】 建築学コースの学習・教育目標のなかの以下の2つの目標と関係する。 4. 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う 6. 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける</p> <p>【前提とする知識、関連する科目等】 高等学校までに学ぶ物理と数学の知識</p> <p>【授業の具体的な進め方】 講義は、配布資料、教科書をもとに行う。ミニ演習やレポート課題の出題もある。</p> <p>【授業計画】 基本的に次の流れで行う。ただし、部分的に内容や順序を変更する場合がある。 第1週 オリエンテーション(講義概要、実務との関連、資格など) 第2週 建築と建築設備、技術者倫理 第3週 建築設備と都市設備の関係 第4週 高性能住宅の事例 第5週 電気設備の構成 第6週 給排水衛生設備の構成 第7週 空調設備の構成と目的 第8週 温熱感と温熱環境要素のコントロール 第9週 空調熱負荷要素 第10週 給排水衛生設備の目的 第11週 給水・給湯方式と原理 第12週 トラップ類・通気の方式の原理 第13週 排水方式、浄化方式と原理 第14週 照明設備と搬送設備 第15週 建築事例紹介</p> <p>【教科書・参考書・教材等】 教科書: 建築設備 ー建築・地域設備の計画と設計ー、オーム社</p> <p>【成績評価】 ・2/3以上の出席回数を満たさない場合は評価の対象にならない。 ・レポートの評価を2割、期末試験結果を8割の重みで総合点を算出し、原則的に、得点が満点に対して90%以上のとき秀、75%以上のとき優、60%以上75%未満のとき良、50%以上60%未満のとき可、50%未満のときは不可と評価する。</p> <p>【学習上の助言】 人間が安全で快適に生活し効率的に活動するため、あるいは高品質の生産を行うために必要となる諸機能と設備全般の機器構成を理解して下さい。</p>					

資料38 教育の三方針

社会基盤デザイン学科

修了認定の基準 (ディプロマポリシー)

- ・自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための基礎的な専門知識・理論が理解できる。
- ・社会基盤整備の実務上の問題に対応するために、専門知識を適用・発展することができる。
- ・社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる。
- ・社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる。
- ・社会基盤整備及び施策を、適切な形で着実にやり遂げることができる。

履修条件 (アドミッションポリシー)

- ・国内・海外の様々な地域の課題解決に関心があり、グローバルに活躍したい人材
- ・社会基盤と地域デザインの技術習得に熱意があり、そのための幅広い基礎学力を有する人材
- ・社会全体の利益のために奉仕できる責任感のある人材

学修・教育目標を達成するためカリキュラム方針 (カリキュラムポリシー)

- ・社会基盤デザイン学科では、幅広い知識を持って多様な分野や地域社会と協働でき、グローバル社会においても活躍できる土木技術者の育成のため、以下のようなカリキュラムポリシーを定めています。特に学科の専門科目においては、学修効果を高めるためにアクティブ・ラーニングの手法を導入し、教員や学生同士の双方向型授業を実施します。
- ・1～2年次において、数学、物理などの自然科学の基礎、人文、社会科学など地域デザインの基礎を学び、次いで、社会基盤整備の基礎となる構造、材料、水工、地盤、計画等の土木工学の各分野の基礎知識や理論を学習します。
- ・3年次では、上記の専門基礎を実際の問題にどのように適用し解決すべきかについて、演習や実験などの授業科目を通じて体得します。また各分野において、より発展させた知識・理論を学修します。これらと並行して、総合的なマネジメント、最前線の現場でのインターンシップなど、土木技術者にとって必要な幅広い知識、経験が得られるようにします。
- ・4年次では、修得した知識・経験の集大成として、総合的に実践する場となる卒業研究に着手し、問題発見、分析方法や解決策の提案、計画の立案および実行、これらの結果取りまとめによる報告書や論文の執筆および発表に取り組み、社会基盤整備に携わる専門技術者がなすべき一連の仕事を完結できるようにします。

資料39 カリキュラムツリー
社会基盤デザイン学科

資料40 学修・教育の達成目標確認マトリックス
社会基盤デザイン学科

科目名	単位	学年 学期	ディプロマポリシー又は養成する能力					
			自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための基礎的な専門知識・理論が理解できる能力	社会基盤整備の実務上の問題に対応するために、専門知識を適用・発展することができる能力	社会基盤の世界的動向を把握し、グローバルな技術展開ができる能力	社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる能力	社会基盤整備及び施策を、適切な形で着実にやりの遂げることができる能力	
構造力学 I	2	2 前	◎					
構造力学 II	2	2 後	◎					
水理学 I	2	2 前	◎					
水理学 II	2	2 後	◎					
土質力学 I	2	2 前	◎					
土質力学 II	2	2 後	◎					
コンクリート工学 I	2	2 前	◎					
鉄筋コンクリート工学	2	2 後	◎					
測量学	2	2 前	◎					
測量学実習	3	2 通	○	◎				○
土木工学実験	2	3 通	○	◎				○
社会基盤設計演習	1	3 後	○	◎				○
海外プロジェクト I	2	2 後	○	○		◎		
海外プロジェクト演習	1	3 前	○	○		◎		
土木計画学	2	2 前	○	○			◎	
公共経済学	2	2 前	○	○			◎	
防災マネジメント I	2	2 後	○	○			◎	
防災マネジメント演習	1	3 後	○	○			◎	
社会基盤インターンシップ	1	3 通	○	○				◎
卒業研究	8	4 通				○	◎	◎

資料41 宇都宮大学シラバス掲載例

社会基盤デザイン学科

宇都宮大学シラバス掲載例（社会基盤デザイン学科）



授業科目名	構造力学 I Structural Mechanics I				
開講時期	前期	曜日・時限	水:3-4	時間割コード	未定
開講学部等	地域デザイン科学部	科目等履修生の受入	受入可		
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	講義
担当教員名	中島 章典				
電話番号	028-689-6208	電子メール	akinorin@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	月曜日、火曜日 12:00-13:00 (中島研究室)				
特記事項	<p>【授業の内容】 種々の荷重を支持する構造物は安全に機能を果たすように大きさや形を決定しなければならない。そのためには、まず、荷重によって構造物の中いどのよう力が働くのかを明らかにし、それと構造物を構成する材料の強度とを比較して安全性が確保されているかを確認しなければならない。このような問題を考える際に必要となる学問が構造力学である。構造力学Iでは、所要の荷重を支える構造物を設計する場合に必要な力学的な考え方、具体的な構造物の応力あるいは変形の求め方および構造設計において必要な構造物の強度の求め方あるいは構造設計における照査の考え方を、主にはり構造を対象として学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】 本講義は、社会基盤デザイン学科の教育目標に関連して、 1) 構造力学における構造と力の考え方、 2) 構造物の設計における基本概念、 3) 平面の静定はりを対象として、荷重によって生じる断面力、応力あるいは変形を求めるための基礎式の成り立ち、 4) 実構造物を設計する際に必要となる断面力、応力あるいは変形の具体的な求め方を理解することを達成目標とする。</p> <p>【学習・教育目標との関連】 社会基盤デザイン学科の教育目標(A) 専門基礎力の修得</p> <p>【前提とする知識、関連する科目等】 構造力学は物理学に基礎を置くものであり、また、微分・積分をはじめ、数学の基礎的知識を利用する。したがって、専門科目の微積分学及演習、線形代数及演習、力学、応用力学序論の履修が前提である。</p> <p>【授業の具体的な進め方】 下記に指定する講義資料に基づき授業を行う。また、毎週の授業内容に関する宿題を課すので、受講者は課題を自分で解き理解を深めるとともに指定した期日までに宿題を提出する。翌週の授業時に宿題の解説を行う。</p> <p>【授業計画】 第1週 構造力学の必要性、構造と力、設計の考え方、 第2週 力の性質、応力の定義とつり合い、 第3週 ひずみの定義、 第4週 はりの性質とはりの応力と断面力の関係、静定はりの支点反力、断面力の解法、 第5週 はりの荷重と断面力の関係、 第6週 ゲルバーはり、間接荷重を受けるはり、折れはりの解法、 第7週 はりの曲げ応力とせん断応力、 第8週 中間の理解度確認、 第9週 断面諸量、曲げ応力とせん断応力の連成、 第10週 モールの応力円、 第11週 微分方程式法によるはりのたわみの算定法、 第12週 はりのたわみに関する種々の問題、 第13週 複数の弾性係数を有する断面の断面諸量、 第14週 はりの弾塑性曲げ挙動、 第15週 はりの強度</p> <p>【教科書・参考書・教材等】 オリジナルの講義資料を使用する。講義資料は生協で販売予定であるので購入して準備すること。また、構造力学関係の図書は数多くあるので、他に1冊程度参考書として購入することを薦める。</p> <p>【成績評価】 期末定期試験(満点45点)と中間の理解度確認(満点45点)および毎週の宿題への対応状況に応じた評価点(最高10点)の合計点100点に対して、60点以上を得点した場合に目標が達成されたとする。</p> <p>【学習上の助言】 講義の内容を理解するためには、普段の自主的な学習および講義後の復習が欠かせない。過去数年の期末試験などの問題および略解をMoodleに掲載しているので参考にとすること。また、他の構造力学関係の図書の例題も参考にとすること。なお、この講義を履修していない場合には、3年次の土木工学実験のうち構造力学分野の履修を認めない場合があるので注意すること。</p>				

資料42 既存施設の利用計画

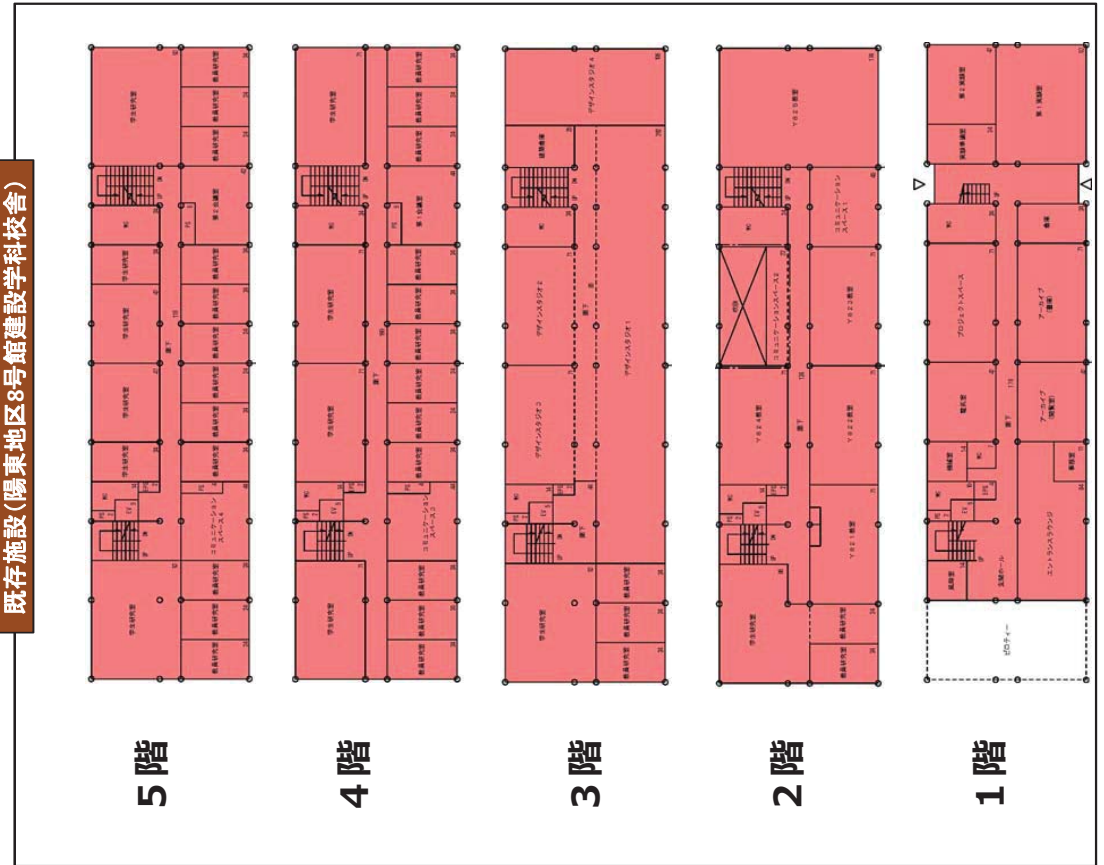
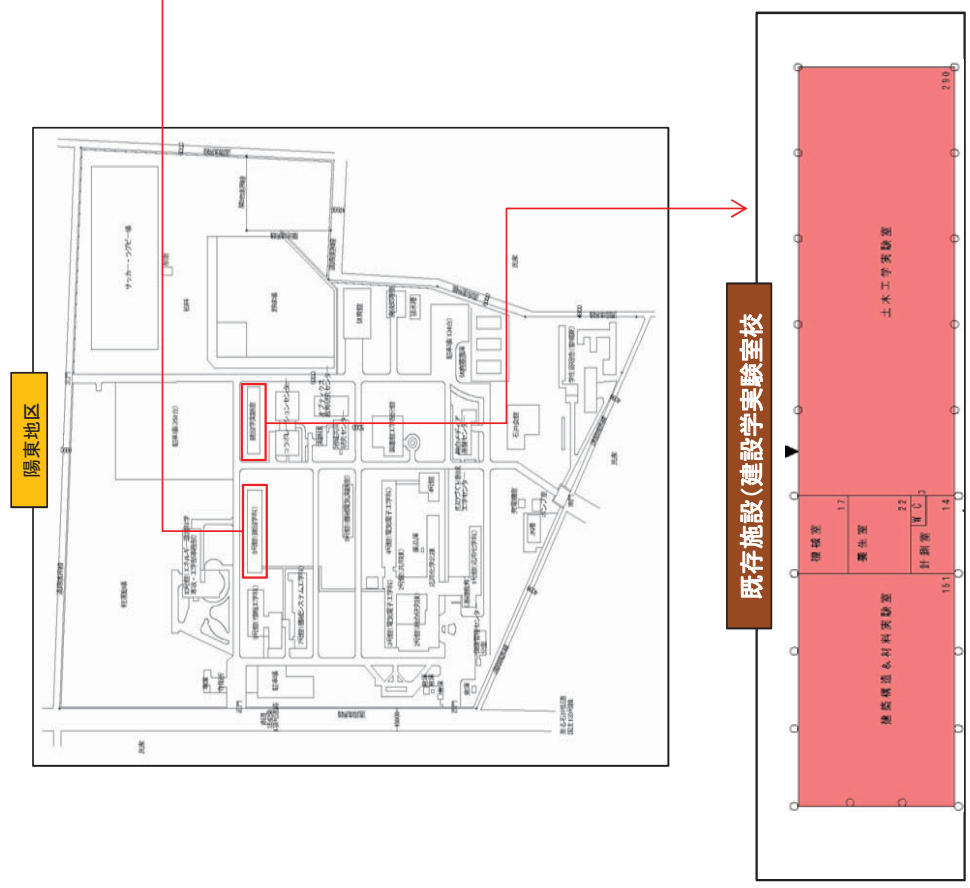
建築都市デザイン学科
社会基盤デザイン学科

既存施設の利用計画【建築都市デザイン学科・社会基盤デザイン学科】

既存施設

- ・建築都市デザイン学科・社会基盤デザイン学科は、既設陽東地区8号館建設学科校舎及び建設学実験室校舎を活用
- ・教室など主な整備状況は次のとおり

【講義室(4室)、学生研究室(12室)、コミュニケーションベース(3室)、ラウンジ(1室)、デザインスタジオ(4室)、実験室(2室)、建設学実験室(建築構造&材料実験室・機械室・養生室・計測室・土工学実験室)、教員研究室(29室)、プロジェクトスペース(1室)、会議室(2室)、閲覧室(1室)、書庫(1室)】



資料43 新校舎の整備計画

新校舎の整備計画

新校舎の整備

- ・新校舎(1,643 m²)を陽東地区に整備し、コミュニティデザイン学科の教育研究活動の拠点を峰地区から陽東地区へ移転
 - ・3学科の教育研究と管理運営の拠点を陽東地区に集結
 - ・教室など主な整備は次のとおり
- 【大講義室(教室1・2)、学生共用スペース、実験・演習室、パソコン演習室、ゼミ室(2室)、教員研究室(14室)、学部長室、事務長室、事務室、地域デザインセンター長室、センター室、大会議室、小会議室、学科会議室、学科会議室】



工事計画表

項目	平成28年度												平成29年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実施計画																								
設計契約																								
基本設計																								
詳細設計																								
確認申請																								
工事契約																								
工事移転																								

